

教師試験検定に向けて学びを進められる方へ（学習のポイント）

※試験内容・解答のポイントに関するお問い合わせには一切応じられません。

※「真宗学」「仏教学」の論述問題および解答のポイントは、試験後に不合格者へ配布しているものです。

※教師試験検定の過去問題は『教師試験検定問題集』（東本願寺出版）に収載しています。

※参考書として挙げたテキストのうち、出版元の記載のないものはすべて東本願寺出版発行です。

なお、東本願寺出版の書籍のご注文は、東本願寺出版HP（<http://books.higashihonganji.or.jp/>）より承ります。

《真宗学》

●学習のポイント

『浄土の真宗—真宗概要—』を熟読するとともに、同書に引用される聖教については『真宗聖典』所収の本文に丁寧にあたって学習を進め、十分な準備のうえで試験に臨んでください。また、『浄土の真宗—真宗概要—』巻末の索引を利用して重要な言葉の基本的な意味を確認し、それぞれの箇所の記事内容に目を通して理解を深めるよう心がけることが求められます。参考までに前回の試験問題（論述問題のみ）と解答のポイントをご紹介します。

【2025 年夏期教師試験検定の論述問題および解答のポイント】

1 真宗聖典 646 頁 5 行目「選応専正定」というはから 9 行目「のたまえり。」までの文章について、言葉を適宜補足して現代語訳しなさい。

解答のポイント

設問 1 の文章は、法然上人著『選択本願念仏集』の根幹とされる「総結三選の文（または三選の文）」と通称される文章を親鸞聖人が説示される『尊号真像銘文』の文章である。特に難解な文章ではなく、日頃から目を通していれば設問 1 に解答することはそれほど困難ではないはずである。

宗祖の著作の言葉を通して浄土真宗を学んでいくためには、宗祖が向きあい学んでいった三経・七祖の言葉を視野に置く必要がある。設問 1 の文章は『選択本願念仏集』の文章であり、その背景には道綽禅師の『安樂集』がある。教師検定を受けるにあたっては、それらにも意識を向け、素読を繰り返していく学びが必要である。

2 1 の内容をふまえて聖道・浄土の選びについて領解するところを詳しく述べなさい。

解答のポイント

聖道・浄土の選びについて考えていく時に大切なことは、単に「機」の問題、すなわち凡夫という存在の問題にのみ止まることなく、そこには、正法・像法・末法という三時、すなわち「時」という問題がある。末法五濁を生きる凡夫にどのような道が開かれているのかを明らかにしていくところに仏弟子の根本課題がある。

道綽禅師、法然上人は「時機相応の教え」を深く問う中から浄土の一道に立った方であり、親鸞聖人が両師を仰ぐことも、そこに大切な視点がある。その点をふまえて、私において「なぜ浄土の教えであるのか」ということについて、十分な考察をなすことが肝要である。

●参考書：『真宗聖典』『浄土の真宗—真宗概要—』

《仏教学》

●学習のポイント

『改訂 大乘の仏道—仏教概要—』を熟読し、内容を理解した上で試験に臨んでください。学習上、特に重要な点は、①釈尊の生涯と教え、②大乘仏教について、③中国仏教の独自性、を正しく学ぶことです。これらの要点は『改訂 大乘の仏道—仏教概要—』の目次の項目に現れていますので、これを念頭においてください。また重要な仏教用語は、それが人間に何を教えようとしているかを考えることも必須です。なお、参考までに前回の試験問題（論述問題のみ）と解答のポイントをご紹介します。

【2025 年夏期教師試験検定の論述問題および解答のポイント】

- 1 釈尊の入滅後に行われた「結集」とは何か。特に、どのような人たちによって、何が確認されたのかに言及しつつ説明せよ。

解答のポイント

釈尊の入滅の直後に行われた結集（第一結集）、あるいは入滅 100 年後の第二結集のいずれかまたは両者について、その理解を問う設問である。第一結集については、仏弟子の中の誰が中心となって招集し、どこに、何人の仏弟子が集まったかなど、結集に関する基本的な事柄の記述が問われる。釈尊が在世中に説いた法（教説）と律が、そこに集まった仏弟子たち全員によって確認された。このとき、法（教説）の誦出は阿難（アーナンダ）が、律の誦出は優婆離（ウパーリ）が担当した。さらに、このときの仏弟子たちの教説の受けとめが「如是我聞」と表現され、後の經典成立と関係していることへの言及があることが望ましい。教科書 100 頁を参照のこと。また第二結集については、教科書 102～103 頁の内容を踏まえ、これによって僧伽が分裂したことへの記述があることが望ましい。

- 3 中国仏教の基礎を確かなものとした道安（315-385）について、どのような功績を残し、後の時代にどのような影響を与えたのか、知るところを述べよ。

解答のポイント

道安の功績は多岐にわたるが、教科書 226-229 頁に記される数々の事柄の中から、後の時代に影響したそのいくつかの功績に言及することが望ましい。例えば、中国への仏典初伝以来続いていた「格義」という仏教理解のあり方を是正しようとしたこと（教科書 226-227 頁）、僧侶の姓を「釈」に統一しようとしたこと（教科書 227 頁）、仏典漢訳に際する留意事項を「五失本三不易」として示したこと（教科書 227 頁）、後に続々と成立する經典目録の基準となる『綜理衆經目録』を編纂したこと（教科書 228 頁）、西城僧、鳩摩羅什の招請を国王に進言したこと（教科書 228 頁）などは、後の中国仏教の展開に関わる道安の重要な功績である。

- 参考書：『改訂 大乘の仏道—仏教概要—』『改訂 大乘の仏道—仏教概要— 資料編』

《教化》

●学習のポイント

- ・「教化」の試験は、真宗大谷派教師として最低限必要な教学及び宗門に関する知識の習得状況を確認するとともに、教師を志す受験者自身が本願念仏の教えに生きる者としてどのような姿勢をもって学んでいるかを確認するための試験です。

- ・小論文（事前レポート）の採点は、前述の視点を踏まえ、具体的には、「課題に正対した内容であること」（問われている意味内容を正確に捉えて書く。問われていないことに関する論説や主張などは採点の対象とならない）、「文意が通っていること」、「誤字・脱字がないか」、「字数制限が守られているか」、「自身の経験を通して自らの言葉で述べられているか」などの項目をもって行います。
- ・試験当日は面接を行います。面接を欠席した場合は「教化」について受験辞退となります。

- 参考書：『改訂 教団のあゆみ—真宗大谷派教団史—』・『浄土の真宗—真宗概要—』・『宗祖親鸞聖人』
『真宗大谷派宗憲・宗教法人法』・『信の回復』・『改訂 大乘の仏道—仏教概要—』・
『念仏の僧伽を求めて—近代における真宗大谷派の教団と教学の歩み—』（法蔵館）

《声明作法》

●学習のポイント

- ・「声明作法」の試験は筆記試験及び実技試験とし、実技試験は声明作法〔浄土三部経（抄）・正信偈 草四句目下・念仏和讃三淘・御文〕並びに装束作法の習得状況を確認します。なお、装束を正しく着けることも試験の評価項目となるので、装束作法についても習得するとともに、『真宗の儀式—声明作法—』を熟読の上で試験に臨んでください。
- ・筆記・実技それぞれにおいて所定の点数を満たさなければ合格となりませんのでご注意ください。

- 参考書：『真宗の儀式—声明作法—』・『真宗大谷派声明集』（もしくは『大谷声明集（上）』（法蔵館））・
『真宗大谷派 御文拝読稽古本』（もしくは『昭和 new 御文（ひらかな版）』（法蔵館）もしくは『大正
新刻 御文』（法蔵館））・『浄土三部経（抄）』（法蔵館）※試験当日は『浄土三部経（抄）』（法蔵館）
を持参のこと

《法 規》

●学習のポイント

以下の3つの項目を中心に学びを進め、「真宗大谷派宗憲」「宗教法人「真宗大谷派」規則」「宗教法人法」「宗教法人「」寺規則（真宗大谷派の寺院・教会の宗教法人規則（準則））」を熟読の上試験に臨んでください。なお、筆記試験時にはこれらの法規を収載した『真宗大谷派宗憲・宗教法人法』（東本願寺出版）を貸与します（個人所有のものは持ち込み不可）。

- ①各法規に基づく宗教法人（寺院・教会）の運営について
- ②宗憲改正の意義とその歴史的経緯について
- ③宗憲及び真宗大谷派規則に基づく宗門運営について

- 参考書：『真宗大谷派宗憲・宗教法人法』・『改訂 教団のあゆみ—真宗大谷派教団史—』・
『念仏の僧伽を求めて—近代における真宗大谷派の教団と教学の歩み—』（法蔵館）・
『宗教法人の事務（二訂版）』（文化庁）・
『宗教法人運営のガイドブック』（文化庁 HP にてデータ公開）

以 上